



埼玉県立総合教育センターとの連携について

島根県教育センター
教育企画部長 山崎 誠



令和2年1月16日(木)に埼玉県立総合教育センターの羽田邦弘所長と当教育センターの福間俊行所長との間で、「島根県教育センターと埼玉県立総合教育センターとの教職員研修における連携に関する覚書」が調印されました。埼玉県立総合教育センターで執り行われた調印式には、島根県教育庁教育指導課からも2名、さらに海士町役場の人づくり特命担当課長濱中様、JICAグローバルコーディネーターの高田様にもご隣席いただき、また所員の方にも多数参列いただきました。調印式の様子は、島根県教育センターにも遠隔システムで配信され、盛大な中にも終始和やかな雰囲気できが執り行われました。調印式終了後には、埼玉県立総合教育センターのある行田市の名物である「ゼリーフライ」を参列者で試食する

ミニイベントもありました。相互の理解には、お互いの文化や歴史を理解し尊重していくことも大切であることをメッセージとしていただいていると思っています。ちなみに、行田市は、国宝の稲荷山古墳出土鉄剣が発掘された「さきたま古墳群」があるなど、さいたまの語源になったとも言われる地です。映画「のぼうの城」や日曜劇場「陸王」でも有名になりました。

連携に関する覚書では、その第1条で、「島根県教育センターと埼玉県立総合教育センターは、相互がもつそれぞれの機能を活用し、互いの研修講座をはじめとした事業等について、連携、協力をすることにより、両県教職員の資質及び専門的指導力の向上を図ることを目的とする」としています。この覚書に基づき、今後研修講座の相互視聴をはじめ、様々な事業での連携を模索し実現していくことになりました。連携を円滑に進めるために、連携協議会を年1回程度開催することでも合意しています。

覚書を調印することになったのは、平成30年8月に埼玉県教育委員会と島根県教育委員会が「連携協力協定」を結んだことにはじまります。埼玉県からは島根県の「教育の魅力化」に高い関心を寄せていただき、島根県としては、埼玉県の「協調学習」に高い関心を寄せるなかで交流が進み、協定が結ばれるに至りました。

教育センター同士でも連携できないか模索するため、昨年6月に、埼玉県立総合教育センターの羽田所長と黒田勇輝教育主幹が当センターに訪問され、連携することの意義について協議しました。

その後具体的な連携内容を協議するため、同年9月に黒田教育主幹と情報教育推進担当の野辺純利指導主事が再度訪問され、連携に向けてのプロセスマップの提示、遠隔による研修の相互視聴に向けて現状の課題整理を行うなど、一気に連携が現実のものとなっていきました。

12月には、私と企画・研修スタッフの企画 \$ チーフ梶谷指導主事が、埼玉県立総合教育センターへ覚書調印に向けての協議及び所員交流のために赴き、研修の相互視聴に向けての環境確認、そしてそれ以外の連携についても協議を行いました。この間断続的に、遠隔システムにより、実務担当者同士で会議を重ね、覚書の調印に至りました。

覚書調印後の2月には、当教育センターの所員研修を、埼玉県立総合教育センターにも配信する試みを行いました。単なる研修視聴でなく、協議も遠隔システムで行うことが可能だと実証され、次年度に試行する研修の相互視聴に向けてのノウハウを蓄積することができました。

研修の相互視聴以外では、全国初の取り組みとなる教育センター同士の共同研究に加え、指導主事の短期の人事交流による研修ノウハウの共有など、様々な連携にむけて準備を重ねているところです。

実は、私が、平成23年度に埼玉県立総合教育センターの主管で行われた全国規模の研究大会に参加したことがきっかけで、現在初任者研修や経験年数に応じた研修等で使っている「授業づくりハンドブック」所収の授業力診断シートなどを作成する上で大変参考となるデータを埼玉県立総合教育センターから提供していただきました。また、平成26年度にも埼玉県立総合教育センターを訪れ、平成27年度からリニューアルした管理職研修の構築や、当該年度の研究テーマであった「管理職による授業観察実践事例集」の作成に多大なご示唆をいただきました。この時に、これらのことに関わっておられたのが黒田教育主幹(当時は指導主事)でした。お互い2度目の教育センター勤務ということもあり、話がスムーズに心やすくてきたのはとても大きかったと思っています。こうした人との繋がりやご縁を大事にしなが、今後も連携を深めて行きたいと思っています。

令和元年度 新任研・経験研の教育センター研修が終わりました！

新任教職員研修

成長を実感した1年。でもまだまだ学び続けたい。

令和元年度新任教職員研修最後の教育センター研修は、1月29日と30日に浜田教育センターで、30日と31日に島根県教育センターで実施されました。「学校組織マネジメントと連携・協働」や「竹島に関する学習」、「学級経営」等の研修を通して、参加者は、教職員としての資質能力を、またひとつ高めることができました。さらに、「フォローアップ研修」においても、教職員として2年目以降の目標をもち、意欲的に取り組んでいこうという姿が多く見られました。以下、研修後の感想をひとつ紹介します。

受講者の感想

今回が最後の新任研ということで、たくさんの仲間に出会って励ましてもらった分、寂しく思いました。ペア・グループワーク等でこれまでの歩みを話さず、自分が少し成長したと思えるところもありました。一年間で学んだことを忘れずにまだまだ学び続けたいです。

教職経験6年目研修

目の前の子どもたちをしっかりと見ていきたい。

教職経験6年目研修第Ⅳ回教育センター研修は、西部で2月13日に、東部で2月14日に行われました。研修で学んだことを今後の学校現場で生かしていきたいという思い、これからも自分の得意分野を開発・探究し続けていきたいという姿に頼もしさを感じました。以下、研修後の感想を紹介します。

受講者の感想

- ・児童の実態把握をする際の多角的な視点を養うことができた。自分自身が授業づくりを楽しみ実践することができたので、子どもたちが楽しいという授業につながったと思う。授業づくりに協力して下さった同僚に感謝し、子どもたちの変化を見逃さない目を更に養いたい。(小学校教諭)
- ・「授業づくりの研修」では、結論をどう導くかということにあくせくした1年だった。それに向き合い、自分で色々調べ、助言をいただき勉強した。ここまで考え、結論に辿り着こうとしたことは久しぶりだったように感じる。この1年で多くを気付かせていただいたので、目の前にいる生徒と向き合いながら、自分の足元も見つめていこうと思った。(高等学校教諭)
- ・苦手としていたこと、避けていたことと向き合わねばならない1年だったように思います。しかし、取り組んでみると思っていたほど難しくなかったり、大切だと思えるようになったりと、非常に実りの多い1年でした。養護教諭として、イメージすること、まずはやってみることの大切さを強く感じました。苦しかったけど、とても楽しかったです。(養護教諭)

中堅教諭等資質向上研修・専門性向上研修

ミドルリーダーとしての役割を実感！

中堅教諭等資質向上研修第Ⅴ回教育センター研修は2月6日、7日に開催されました。「教職員の倫理と服務」、「竹島に関する学習」、「人権教育」をすべての対象者が受講した後、午後からの最後の研修では、それぞれの職務において研究した成果を発表し、1年間の学びを振り返り、成果や次年度への課題を共有しました。専門性向上研修第Ⅳ回教育センター研修は、2月7日に島根県教育センターで開催されました。午前中は、中堅教諭等資質向上研修と合同開催で同じ講義を受講し、午後からは職務研修として、年間を通して行ってきた課題研究の成果発表を行いました。

受講者の感想及び報告書より

- ・ミドルリーダーとしての役割が果たせるように、校内、地域、家庭との連携を心掛け、自分のことだけでなく周囲とつながって職務に取り組んでいきたいです。
- ・課題研究、授業研究、校内研修の企画運営、異校種体験研修などを通して、日々の授業を振り返る良い機会となった。振り返る中で、子どもたちの学びをしっかりと見取った上で、授業の導入を考えたり、課題を示したりしなければならぬと、改めて認識した。

限られた時間の中ではありましたが、試行錯誤した課題研究などの取組から次の課題が見えてくるなど、受講者の皆さんにとって価値のある研修になったようです。これからの更なる活躍が期待されます。

教育相談スタッフ特別支援教育セクション指導主事共同研究 「特別支援学級担任等への支援の充実に向けて ～ホームページでの情報発信を通して～」

島根県教育センター教育相談スタッフ特別支援教育セクションでは、今年度からの2カ年計画の指導主事共同研究として、「特別支援学級担任等への支援の充実に向けて～ホームページでの情報発信を通して～」というテーマで取組を進めています。

当センターでは、小・中学校の特別支援学級担任を対象とする職務研修を行っていますが、これまでの受講者の様子から、「子どもとの出会いの前にできることを早くから準備しておきたい」「校内で相談する人がいない場合の不安が大きい」などの思いがあることを受け止めてきました。また、特別支援教育の学びの窓口として、常に当センターホームページに必要な情報を用意しておくことで、誰もが必要な内容を得ることができる環境を整えたいと考えました。

これまでも当センターホームページには特別支援教育に関する情報（研修で使用したシート等、特別支援学級の教育課程について、他）を掲載してきましたが、今年度は、研修受講者へのアンケートや、研修に関わった講師等からの意見を参考にしながら、特別支援学級担任等のニーズを把握し、必要な情報を作成してホームページへ掲載することとしました。そして、次年度にその検証・改善を行う計画としています。

ホームページをご覧いただき、是非とも忌憚らないご意見をお寄せいただけたらと思います。

【3月に新たに掲載した情報】

- 1 子どもをみつめる
- 2 各教科等を合わせた指導とは？
- 3 自立活動ってなんだろう？
- 4 自立活動の内容整理表
- 5 自立活動の流れ図 13 事例（学習指導要領より）
- 6 個別の教育支援計画・個別の指導計画とは？
- 7 障がいのある児童生徒への配慮についての事項
- 8 特別支援学級の教育課程について
悩んでいませんか？ ver.3（更新）
- 9 学習指導案（様式例、記入例）



ホームページのイメージ

島根県教育センター研究・情報スタッフより

○ 研究紀要執筆中（4月発刊）

教育センターでは、法定研修を初めとして、教育課題に対応した研修の実施、校内授業研究の活性化のための支援、出前講座・要請訪問の実施など、教育庁各課や教育事務所との連携を図りながら、日々の業務を行っています。

併せて、教職員の皆様の参考になり、教育課題の解決の一助となることを目指し、調査・研究活動に取り組んでいます。今年度も、これからの学校教育の在り方や新学習指導要領の重点項目とも言えるテーマで、研究を進めてまいりました。これらの内容が、各校の教育実践の参考となり、児童生徒や地域の実態に応じた学校づくりや学級づくり、教職員一人一人の資質能力の向上を目指す研修や研究活動に活用され、教育実践の充実につながることを切に願っています。研究を進めるにあたり、ご支援ご協力をいただきました皆様に心から感謝申し上げます。教育センターHPにも掲載しますので、ぜひお読みください。

【研究主題等】

| | |
|---|---------------------------------------|
| 「考え、議論する道徳」への質的な転換を図る道徳の授業の在り方 | 島根県教育センター 企画・研修スタッフ共同研究 |
| 「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善 ～高等学校における ICT の効果的な活用～ | 島根県教育センター 研究・情報スタッフ共同研究 |
| 保護者と学校のよりよい関係を考える ～保護者との関係づくりに生かす校内研修パッケージの提案～ | 島根県教育センター 教育相談スタッフ相談セッション共同研究 |
| 特別支援学級担任等への支援の充実に向けて ～ホームページでの情報発信を通して～ | 島根県教育センター 教育相談スタッフ 特別支援教育セッション共同研究 |
| 教科等横断的な学びに関する一研究 | 島根県教育センター浜田教育センター 研究・研修スタッフ共同研究 |
| 学校現場を支える教育センターの役割 ～「ケース」支援を通じて～ | 島根県教育センター浜田教育センター 教育相談スタッフ共同研究 |
| 小学校第5学年における外国語教育 ～外国語科の単元指導計画の作成を目指して～ | 島根県教育センター 企画・研修スタッフ 須田香織 |

○ 令和2年度 教育研究発表会のお知らせ（令和2年3月現在の予定です）

| | 島根県教育センター | 島根県教育センター浜田教育センター |
|-------|--|---|
| 日時 | 令和2年5月16日（土） 10:00～16:30 | 令和2年5月23日（土） 9:30～16:20 |
| 会場 | 島根県教育センター講堂等 | 島根県教育センター浜田教育センター講堂等 |
| 研究発表等 | <ul style="list-style-type: none"> 指導主事共同研究発表 令和元年度島根県教育センター長期研修員研修成果報告 ICTを使った授業づくり演習（研究情報棟） | <ul style="list-style-type: none"> 指導主事共同研究発表 令和元年度島根県教育センター浜田教育センター長期研修員研修成果報告 |
| | ※ 詳しい内容につきましては、一次案内・二次案内でお知らせいたします。 | |
| 講演講師 | 九州大学大学院 人間環境学研究院 教育学部門 教育社会計画学講座 教授 元兼 正浩 氏 講演内容： 社会に開かれた教育課程 （演題未定） | 特別支援教育ネット代表 宇部フロンティア大学 臨床教授 小栗 正幸 氏 講演内容： 特別支援教育（演題未定） |
| その他 | 本発表会の参加をもって、初任者研修の校外自主研修（エ 研修会・研究会をとおしての研修）とすることができます。 | |

